

東日本大震災から6年、いまだ届かぬ声がここに—

ドキュメンタリー映画 [ライフ]

生きてゆく

ただ会いたくて
風吹く浜で、きょうも—

第5回 山本美香記念国際ジャーナリスト賞 を受賞

山本美香記念国際ジャーナリスト賞は、
2012年8月20日、中東シリアのアレッポにて取材中、
銃弾に斃れた山本美香(享年四五)の
ジャーナリスト精神を引き継ぎ、
果敢かつ誠実な国際報道につとめた個人に対して
贈ろうとするものです。

一般財団法人山本美香記念財団公式HPより

「忘れないで欲しいっていう気持ちは、ないんですよ。
風化するのしょうがないことだと思ってる。
でも忘れる前に、福島で起こったことは、まだ知られていない。
福島の本当の現実を、ただわかって貰えたらって思っています。」

上野敬幸さん(「Life」主人公/福島県南相馬市萱浜 在住)

出演/上野敬幸、上野貴保、上野倅更生、木村紀夫 監督・撮影・編集/笠井千晶(Rain field Production)
音楽/Steve Pottinger 題字/優和恵 イメージ画/小原風子 企画/想い願うプロジェクト



©2017 Rain field Production 制作/Rain field Production 2017年 115分 16:9 カラー 日本

ドキュメンタリー映画「Life」公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/life.fukushima.tsunami/>

問い合わせ

Eメール omoi.negau@gmail.com 電話 080-9117-7118

これは、遺された 「一軒の家」をめぐる ある家族の “命”の物語。



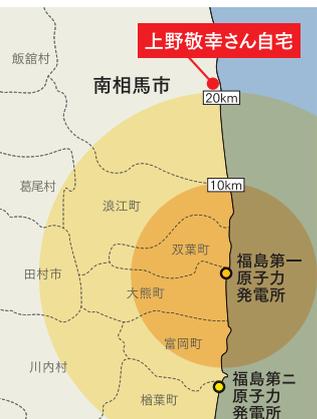
2011年3月11日午後3時40分
福島県沿岸に押し寄せた津波、
そして原発事故—。
見捨てられた命が、そこにはあった。

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた福島県南相馬市萱浜(かいはま)地区。消防団員の上野敬幸さんは両親と子ども2人を津波で流され、必死に捜索を続けていた。その最中、福島第一原発が爆発した。



「本当に助けて欲しいって
思った時には、
来なかったねえ、誰も—。」

捜索のため避難を拒んだ上野さん。その目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された故郷・萱浜に、唯一、遺った我が家だった。この「一軒の家」とともに、物語は紡がれていく—。



「天国のみんなに安心して欲しい。」—すべてが流された萱浜で再起を誓う上野さんは、一面に菜の花の種をまいた。一方、震災後に生まれた娘と妻の3人になった家族には、それぞれの想いが交錯する。そこにはいつも亡くなった4人の存在があった。

「生きているから出来ること。
生きているからこそ、
やらなきゃいけないことがある。」

やがて、第一原発が立地する大熊町で、同じく行方不明の我が子を探す木村紀夫さんと出会う。“復興”の波に抗い続けた上野さん。避け続けてきた現実を前に、ついに苦渋の決断を下す。そして5年9ヶ月後、訪れた奇跡の瞬間とは—。



映画「Life」からのメッセージ

撮影開始から5年半をかけて完成したこの映画は、津波と原発事故がもたらした福島の“知られざる悲しみ”を伝えます。ゆっくりと乗り越えるように歩み、前を向く上野さん一家。その姿は、私たちに問いかけます。家族とは何か—、そして、生きることは—。



監督 笠井千晶 かさいちあき

2018年 10月17日 (水) 14:00 開演 [13:30 開場] / 16:00~16:30 笠井千晶監督を招いてのトーク

[料金] 全席自由・税込 一般 1,000円 ※未就学児の入場不可

[チケット取扱い] プラットチケットセンター

窓口・電話 0532-39-3090 (休館日を除く 10時~19時)

オンライン <http://toyohashi-at.jp> (要事前登録)

穂の国とよはし芸術劇場 アートスペース

TOYOHASHI ARTS THEATRE ART SPACE

豊橋市西小田原町123番地 (豊橋駅南口より徒歩3分) 0532-39-8810

お問合せ C-Catalyst 飯田 080-6550-7477 catalyst.iida@gmail.com